

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成26年4月24日
【事業年度】	第41期（自 平成25年2月1日 至 平成26年1月31日）
【会社名】	株式会社可児ゴルフ倶楽部
【英訳名】	KANI GOLF CLUB CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 遠藤 広康
【本店の所在の場所】	岐阜県可児市久々利向平221番地の2
【電話番号】	（0574）64-1111（代表）
【事務連絡者氏名】	総務・経理次長 神田 裕司
【最寄りの連絡場所】	岐阜県可児市久々利向平221番地の2
【電話番号】	（0574）64-1111（代表）
【事務連絡者氏名】	総務・経理次長 神田 裕司
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の状況

回次	第37期	第38期	第39期	第40期	第41期
決算年月	平成22年 1 月	平成23年 1 月	平成24年 1 月	平成25年 1 月	平成26年 1 月
売上高 (千円)	2,215,906	2,089,115	1,981,568	2,000,029	2,028,394
経常利益 (千円)	266,973	104,316	59,019	78,636	94,929
当期純利益 (千円)	234,342	101,483	41,525	61,551	94,442
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
発行済株式総数 (株)	16,540	16,540	16,540	16,540	16,540
純資産額 (千円)	12,424,654	12,523,496	12,564,334	12,630,151	12,722,441
総資産額 (千円)	12,926,188	12,893,327	12,928,226	12,979,923	13,128,061
1株当たり純資産額 (円)	1,289,782.36	1,300,043.06	1,304,282.36	1,311,114.69	1,320,695.12
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
1株当たり当期純利益 (円)	18,107.43	10,534.80	4,310.64	6,389.59	9,803.93
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	96.1	97.1	97.1	97.3	96.9
自己資本利益率 (%)	1.85	0.81	0.33	0.48	0.74
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	502,429	259,598	244,478	254,556	292,015
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	30,335	149,178	421,244	90,904	219,760
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	677,141	50,887	10,473	890	1,747
現金及び現金同等物の期末 残高 (千円)	816,640	876,173	688,934	1,033,504	1,104,011
従業員数 [外、平均臨時雇用者数] (人)	137 [104]	133 [104]	135 [103]	133 [100]	130 [96]

- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
4. 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
5. 株価収益率については、当社株式は非上場のため、記載しておりません。

2【沿革】

年月	事項
昭和48年 2 月	会社設立
昭和48年 4 月	富士カントリー(株)よりゴルフ場（可児第 1 コース）を購入し、ゴルフ場経営を開始する。
昭和48年 8 月	可児第 1 コース（志野コース）を本オープンする。
昭和49年 5 月	可児第 2 コース（織部コース）を本オープンする。
昭和50年10月	可児第 3 コース（美濃コース）を本オープンする。
昭和59年 9 月	志野・織部両コースは可児ゴルフ場、美濃コースは、美濃ゴルフ場として営業を開始する。
昭和59年10月	美濃ゴルフ場 9 ホール増設オープンする。
昭和60年 6 月	可児ゴルフ場 黄瀬戸コース 9 ホールオープンする。
昭和62年11月	可児ゴルフ場 黄瀬戸コース10ホール増設しエキストラホールを含む19ホールとして仮オープンする。
昭和63年 5 月	可児ゴルフ場 黄瀬戸コースを本オープンする。
平成16年11月	富士カントリー(株)より、可児ゴルフ場及び美濃ゴルフ場の食堂売店ロッジ部門の営業を譲受ける。
平成18年 7 月	株式会社可児ゴルフ倶楽部に商号変更する。
平成20年 8 月	可児ゴルフ場 志野コースを全面改装オープンする。

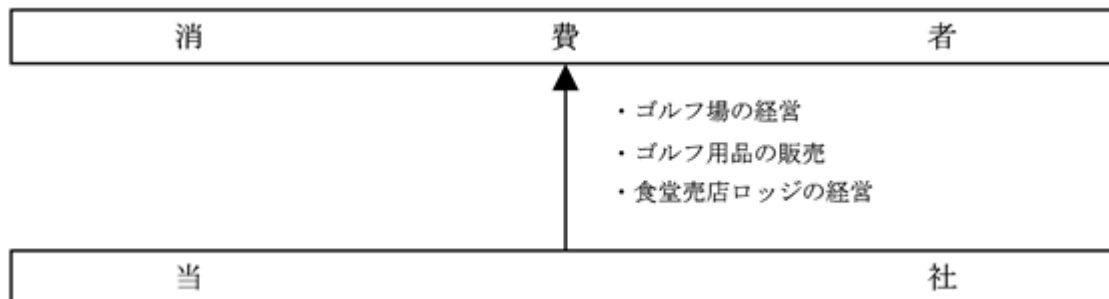
3【事業の内容】

当社の事業はゴルフ場の経営を主たる事業とし、併せてゴルフ用品の販売、ゴルフ場の食堂売店ロッジの経営等の事業活動を展開しております。

なお、当社はゴルフ場の経営及びこれに付随する事業を営む単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

[事業系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成26年1月31日現在

従業員数（人）	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与（千円）
130（ 96 ）	40歳 0 ヶ月	7 年 8 ヶ月	3,396

- （注）1．従業員数は就業人員数であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を（ ）外数で記載しております。
- 2．平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
- 3．当社は、ゴルフ場の経営及びこれに付随する事業を営む単一セグメントであるため、セグメント別の従業員数の記載を省略しております。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当事業年度におけるわが国経済は、経済財政政策の推進に伴い、輸出や設備投資に持ち直しの動きが見られ、製造業を中心に企業収益が改善するなど、緩やかな回復に向けた動きが持続しました。

ゴルフ場業界においては、供給過多の状況のもと、未だ客単価の下落傾向が続いており、猛暑や襲来する台風の増加といった異常気象の影響も受けるなど、依然として厳しい経営環境にありました。

このような状況のもと、当社は、新たに営業部を設立してスタッフの充実を図り、平成25年2月末に開通した東海環状自動車道の五斗蔭（ごとき）スマートICからの恵まれた立地を活かし、積極的な集客活動を推進しました。

具体的な営業施策としては、「新規入会者さまご紹介キャンペーン」を実施し、クラブ会員の活性化を図るとともに、五斗蔭ICの開通を記念したロングランコンペや各種スポンサー杯のほか、可児ゴルフ場の志野トライダー、とくとくハーフコンペ、美濃ゴルフ場の「友の会」コンペ、早割コンペバックなどオリジナリティ豊かな企画を積極的にご案内し、売上げの確保に努めました。

レストラン営業においては、ご好評のレストランコンペやランチバイキングなどイベントの充実を図る一方、国内有名ホテル等で発生した食材偽装表示問題を契機に、メニューと使用食材のチェック体制の見直しを行い、食の安全・安心の徹底に努めました。

コース施設においては、可児ゴルフ場織部12番ホールに池を新設して景観美と戦略性を高めるとともに、打ち込みの危険がある箇所樹木伐採（織部4番ホール）、防球ネットの設置（美濃ゴルフ場中6番ホール）、地震などの災害に備えクラブハウスの窓ガラス飛散防止フィルム貼り付け工事を実施するなど、安全対策を徹底しました。

さらに、可児ゴルフ場男子ビジター用ロッカーの更新、ストレッチコーナーの新設や1階男子トイレの改修、美濃ゴルフ場玄関横キャディバック立ての更新のほか、従業員の接客研修を実施するなど施設とサービスの充実に取り組みました。

また、クラブの評価のさらなる向上を図るため、志野コースにおいて5月に「富士カントリー可児クラブチャレンジカップ」、7月に「PGA男子第2次プロテスト」、10月に中部ゴルフ連盟主催の中部インタークラブ競技本戦などを開催しました。

当事業年度の業績につきましては、積極的な営業活動等により、可児、美濃両ゴルフ場で来場者数が192,626人（前年同期比4.6%増）となり、売上高は2,028,394千円（前年同期比1.4%増）、営業利益は67,460千円（前年同期比28.4%増）、経常利益は94,929千円（前年同期比20.7%増）、当期純利益は94,442千円（前年同期比53.4%増）となりました。

セグメントの業績については、ゴルフ場の経営及びこれに付随する事業を営む単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(2)キャッシュ・フロー

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ70,507千円増加し、当事業年度末には1,104,011千円（前年同期比6.8%増）となりました。

また当事業年度中の各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において営業活動の結果獲得した資金は292,015千円（前年同期比14.7%増）となりました。

これは主に税引前当期純利益97,360千円の計上及び減価償却費143,904千円、役員退職慰労引当金55,800千円の増加による資金の内部留保によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において投資活動の結果使用した資金は219,760千円（前年同期は90,904千円の獲得）となりました。

これは主に有価証券の償還による収入200,000千円に対し、ゴルフ場設備の設備投資に101,558千円及び投資有価証券の購入に323,889千円を要したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において財務活動の結果使用した資金は1,747千円（前年同期比96.2%増）となりました。

これは入会預り保証金1,142千円、リース債務604千円の返済によるものであります。

2【仕入及び販売の状況】

当社は、ゴルフ場の経営及びこれに付随する事業を営む単一セグメントであるため、以下の記載についてはゴルフ場別に記載しております。

(1) 商品仕入実績

当事業年度の商品仕入実績（プロショップ仕入）をゴルフ場別に示すと次のとおりであります。

ゴルフ場別	第41期 (自 平成25年 2 月 1 日 至 平成26年 1 月31日)	前年同期比(%)
可児ゴルフ場(千円)	22,227	119.1
美濃ゴルフ場(千円)	8,312	123.0
計(千円)	30,540	120.1

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 原材料仕入実績

当事業年度の原材料仕入実績（レストラン食材等）をゴルフ場別に示すと次のとおりであります。

ゴルフ場別	第41期 (自 平成25年 2 月 1 日 至 平成26年 1 月31日)	前年同期比(%)
可児ゴルフ場(千円)	102,812	103.6
美濃ゴルフ場(千円)	52,013	100.5
計(千円)	154,826	102.5

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当事業年度の販売実績をゴルフ場別に示すと次のとおりであります。

ゴルフ場別		第41期 (自 平成25年 2 月 1 日 至 平成26年 1 月31日)	前年同期比(%)
可児ゴルフ場	プレー収入(千円)	902,161	102.0
	レストラン収入(千円)	286,532	103.8
	商品売上収入(千円)	29,792	111.3
	その他の収入(千円) (ロッカー専有料)	320	70.3
	小計(千円)	1,218,806	102.6
美濃ゴルフ場	プレー収入(千円)	395,434	96.9
	レストラン収入(千円)	139,369	101.1
	商品売上収入(千円)	10,395	116.4
	小計(千円)	545,200	98.3
登録料収入(千円)		103,710	106.6
年会費収入(千円)		160,678	99.8
合計(千円)		2,028,394	101.4

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

ゴルフ場業界においては、ゴルフ人口の減少によって、ゴルフ場間の顧客獲得競争がますます厳しさを増すなか、消費税増税による需要変動など、先行き不透明な情勢が続くものと思われます。

当社は、このような状況のなか、お客さまにご満足いただけるサービスおよびコースならびに施設を継続的にご提供していくために、健全な財務内容を維持し、安定した経営基盤を構築していくことが重要な経営課題であると認識しております。

営業面においては、前事業年度に発足した営業部を中心とした営業力のさらなる強化を図り、プライベートコンペの誘致をはじめ、季節や曜日に応じた魅力あるイベントを開催し、収益の確保に努めてまいります。

また、お客さまに安全で快適なプレー環境をご提供するため、コースの整備、老朽化したコース管理用機械の更新等を行うとともに、美濃ゴルフ場の女性浴室・トイレの全面改修など、施設の充実を進めてまいります。

さらに、本年も富士カントリー可児クラブチャレンジカップ（6月・志野コース）のほか、男子プロの試合やアマチュア公式競技の開催に向けて、従業員のスキルアップと高いコースコンディションの維持に取り組み、クラブの評価向上を目指してまいります。

今後ともお客さまに信頼され、喜ばれるサービスを提供するよう努めてまいります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。当社は、事業等のリスクが発生する可能性を認識した上で、その発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、以下の文中には将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当事業年度末（平成26年1月31日）時点において当社が判断したものであります。

（1）経営環境について

ゴルフ場経営においては、景気の変動及び個人消費の動向が、来場者数に大きく影響を与えます。

景気の低迷は売上高を減少させるリスクがあり、またゴルフ場間の過当競争による低料金化により、当社の業績が影響を受ける可能性があります。

（2）天候による影響について

ゴルフ場経営においては、天候が売上高に大きく影響を及ぼします。特に、台風や積雪といった悪天候による営業休止が発生した場合、来場者の減少により売上高が大きく減少する可能性があります。

また、悪天候によりコースコンディションが損なわれた場合には、多額の復旧費用が発生する可能性があります。

（3）大規模災害による影響について

当社は、岐阜県可児市においてゴルフ場を経営しております。

従いまして同地区において大規模災害が発生して設備の毀損が生じた場合は、休業による売上高の減少及び多額の復旧費用が発生する可能性があります。

また、設備の毀損が無い場合も周辺市場の混乱によって来場者数が大きく影響を受けることで当社の経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

（4）種類別株式を発行していることについて

当社は普通株式と劣後株式を発行しております。利益の配当または残余財産の分配をするときは、劣後株式に先だて、普通株式に配当または分配をなし、普通株式1株の配当額または分配額は、劣後株式35株の配当額または分配額と同等であります。

（5）配当政策について

当社の配当政策における基本的考え方は、クラブの会員でもある株主のみなさまにより良いゴルフ場及びその附帯施設での快適なプレー環境を提供することにより、利益の還元を図っていくこととさせていただいております。

そのため、配当は実施せず、利益は内部留保の上、所有するゴルフ場及びその附帯施設の将来の整備、改良等に備える方針であります。

（6）個人情報の管理について

当社は会員等利用者の個人情報を保有しており、その外部漏洩に関して細心の注意を払っております。

また、従業員に対し情報管理に関する教育を行っておりますが、万一個人情報が漏洩した場合には、信用失墜により、当社の財政状態及び経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

美濃ゴルフ場の賃借契約

美濃ゴルフ場27ホールの内9ホール分の土地は、久々利生産森林組合が所有するものであり、当社はこれの下記の条件で賃借し、営業を行っております。

(イ) 契約年月日	昭和58年1月14日
(ロ) 賃借資産の内容	土地398,430㎡
(ハ) 賃借料	月額2,088千円
(ニ) 差入保証金	40,000千円

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている企業会計の基準に基づき作成されております。また、この財務諸表の作成にあたっては、決算日における財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を与えるような経営者の見積り及び予測を必要としております。当社は過去の実績値や状況を踏まえ合理的と判断される前提に基づき、見積り及び予測を行っております。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

当事業年度末の資産の部合計は、前事業年度末と比較して148,138千円(1.1%)増加し、13,128,061千円となりました。

流動資産は同72,961千円(4.7%)減少し、1,457,206千円となりました。この主な要因は、現金及び預金50,123千円及び有価証券28,774千円減少したことによるものであります。

固定資産は同221,099千円(1.9%)増加し、11,670,855千円となりました。この主な要因は、投資有価証券の購入による251,642千円増加に対し、有形固定資産44,108千円減少したことによるものであります。

(負債の部)

当事業年度末の負債の部合計は、前事業年度末と比較して55,848千円(15.9%)増加し、405,620千円となりました。

流動負債は同135千円(0.0%)減少し、248,467千円となりました。この主な要因は、未払金2,277千円減少に対し、買掛金2,256千円増加したことによるものであります。

固定負債は同55,983千円(55.3%)増加し、157,152千円となりました。この主な要因は、役員退職慰労引当金55,800千円、退職給付引当金3,788千円増加に対し、入会預り保証金3,000千円減少したことによるものであります。

(純資産の部)

当事業年度末の純資産の部合計は、前事業年度末と比較して92,289千円(0.7%)増加し、12,722,441千円となりました。この主な要因は、当期純利益計上により繰越利益剰余金94,442千円増加したことによるものであります。

(3) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

「1 業績等の概要、(2) キャッシュ・フロー」に記載した事項をご参照ください。

(4) 経営成績の分析

「1 業績等の概要、(1) 業績」に記載した事項をご参照ください。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因

「4 事業等のリスク」に記載した事項をご参照ください。

第3【設備の状況】

当社は、ゴルフ場の経営及びこれに付随する事業を営む単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

1【設備投資等の概要】

設備投資につきましては、可児ゴルフ場においてはクラブハウス1階男子トイレ改修工事、男子脱衣室空調機更新工事及び男子ビジター用ロッカーの更新を行いました。美濃ゴルフ場においても玄関横キャディバック立ての更新を行いました。

これらの設備投資に101,812千円を要しましたが、すべて自己資金をもって充当いたしました。

2【主要な設備の状況】

当社は岐阜県内に2ヶ所のゴルフ場を運営しており、主要な設備は以下のとおりであります。

平成26年1月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額							従業員数 (人)
		建物及び 構築物 (千円)	機械装置 及び運搬具 (千円)	コース勘定 (千円)	土地(千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
可児ゴルフ場 (岐阜県可児市)	ゴルフ場 (54ホール)	862,819	17,582	2,262,212	3,966,030 (2,781,749)	1,152	107,733	7,217,529	100 [65]
美濃ゴルフ場 (岐阜県可児市)	ゴルフ場 (27ホール)	209,786	12,840	1,840,557	1,807,260 (946,493)	-	26,889	3,897,335	30 [31]

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定は含まれておりません。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2. 従業員数の[]は、臨時従業員数を外書しております。

3. 上記のほか主要な賃借資産は次のとおりであります。

事業所名 (所在地)	設備の内容	土地の面積(㎡)	年間賃借料(千円)
美濃ゴルフ場 (岐阜県可児市)	コース用地(9ホール)	398,430	25,061

3【設備の新設、除却等の計画】

当社の設備投資については、経営環境を総合的に勘案して策定することとしております。

(1) 重要な設備の新設、改修

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000
劣後株式	10,000
計	20,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成26年1月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年4月24日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,430	9,430	非上場	(注)1、2、3、 4、5、6
劣後株式	7,110	7,110	非上場	(注)1、3、4、 5、6
計	16,540	16,540	-	-

(注)1. 発行済株式は、すべて議決権を有しております。

2. 発行済株式のうち、クラブ規約に基づき当社の経営するゴルフ場の会員となる資格を有する株式は普通株式6,740株であります。

3. 当社が、剰余金の配当または残余財産の分配をするときは、劣後株式に先だって、普通株式に配当または分配をなし、普通株式1株の配当額または分配額は、劣後株式35株の配当額または分配額と同等であります。

4. 当社の株式の譲渡または取得については、株主または取得者は、取締役会の承認を要します。

5. 当社は単元株制度は採用していません。

6. 会社法第322条第2項に規定する定款の定めはありません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成22年1月21日 (注)	11,200	16,540	-	100,000	-	7,799,180

(注)自己株式の消却による減少であります。(普通株式7,310株、劣後株式3,890株)

(6) 【所有者別状況】
普通株式

平成26年 1月31日現在

区分	株式の状況							合計
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	
					個人以外	個人		
株主数(人)	-	5	3	1,243	-	-	5,140	6,391
所有株式数(株)	-	7	3	4,231	-	-	5,189	9,430
所有株式数の割合(%)	-	0.07	0.03	44.87	-	-	55.03	100.00

劣後株式

平成26年 1月31日現在

区分	株式の状況							合計
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	
					個人以外	個人		
株主数(人)	-	-	-	3	-	-	-	3
所有株式数(株)	-	-	-	7,110	-	-	-	7,110
所有株式数の割合(%)	-	-	-	100.00	-	-	-	100.00

(7) 【大株主の状況】

平成26年 1月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社房総カントリークラブ	千葉県長生郡睦沢町妙楽寺字直沢2300番地	2,700	16.32
株式会社笠間ゴルフクラブ	茨城県笠間市池野辺2523番地	2,690	16.26
株式会社明智ゴルフ倶楽部	岐阜県恵那市明智町吉良見字西山980番地の2	2,490	15.05
一般社団法人有報倶楽部	茨城県笠間市池野辺2523番地	1,930	11.66
北斗株式会社	愛知県小牧市郷西町155番地	15	0.09
ユニー株式会社	愛知県稲沢市天池五反田町1番地	12	0.07
北斗総業株式会社	愛知県犬山市丸山天白町157-1	10	0.06
サンフレッシュ中部株式会社	愛知県西春日井郡豊山町豊場八反107	9	0.05
中京海運株式会社	名古屋市中区栄1丁目2-1	8	0.04
株式会社槌屋	名古屋市中区上前津2丁目9-29	6	0.03
フジパングroup本社株式会社	名古屋市瑞穂区松園町1丁目50	6	0.03
東久株式会社	愛知県丹羽郡大口町余野1丁目60	6	0.03
計	-	9,882	59.74

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年 1 月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式 (その他)	普通株式 9,430	9,430	議決権については、権利内容に限定のない当社における標準となる株式
	劣後株式 7,110	7,110	同上 (注)
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	16,540	-	-
総株主の議決権	-	16,540	-

(注) 剰余金の配当または残余財産の分配をするときは、劣後株式に先だて、普通株式に配当または分配をなし、普通株式 1 株の配当額または分配額は、劣後株式35株の配当額または分配額と同等となる株式。

【自己株式等】

該当事項はありません。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3【配当政策】

当社の配当政策における基本的考え方は、クラブの会員でもある株主のみなさまにより良いゴルフ場及びその附帯施設での快適なプレー環境を提供することにより、利益の還元を図っていくこととさせていただいております。

そのため、配当は実施せず、利益は内部留保のうえ、所有するゴルフ場及びその附帯施設の将来の整備、改良等に備える方針であります。

なお、剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。

4【株価の推移】

当社株式は非上場でありますので、該当事項はありません。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役社長 (代表取締役)		遠藤 広康	昭和32年2月14日生	昭和55年4月 富士カントリー(株)入社 平成11年10月 当社美濃ゴルフ場支配人 平成13年11月 (株)広島西カントリー倶楽部代表 取締役総支配人に就任 平成16年8月 (株)富士カントリー明智ゴルフ 倶楽部総務担当部長 平成16年12月 同社監査役に就任 当社総務部長 平成17年1月 (株)広島西カントリー倶楽部代表 取締役社長に就任 平成17年4月 当社取締役総務部長に就任 平成19年5月 当社取締役総支配人に就任 平成21年4月 当社常務取締役総支配人に就任 平成22年4月 当社代表取締役社長に就任 (現任)	(注)2	普通株式 1
専務取締役 (代表取締役)	管理業務 本部長	後藤 貴紀	昭和34年10月14日生	昭和62年4月 富士カントリー(株)入社 平成15年4月 富士カントリー(株)本社 経理チーム次長 平成16年11月 当社可児ゴルフ場ハウス部門 次長 平成17年2月 当社財務部長 平成18年4月 当社取締役財務部長に就任 平成21年4月 当社常務取締役財務部長に就任 平成22年4月 当社代表取締役専務管理業務 本部長に就任(現任)	(注)2	普通株式 1
取締役	営業部長	安藤 美好	昭和36年9月6日生	昭和59年4月 富士カントリー(株)入社 平成4年4月 当社可児ゴルフ場係長 平成11年10月 当社可児ゴルフ場副支配人 平成13年9月 当社美濃ゴルフ場支配人 平成15年4月 当社取締役可児ゴルフ場支配人 に就任 平成25年5月 当社取締役営業部長に就任 (現任)	(注)2	普通株式 1
取締役	レストラン部長	長谷川 幸久	昭和34年1月25日生	平成元年3月 富士カントリー(株)入社 平成16年4月 同社可児営業所レストラン部門 店長 平成17年1月 当社レストラン部長 平成17年4月 当社取締役レストラン部長に 就任(現任)	(注)2	普通株式 1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	富士カントリー 可児クラブ ヘッドキーパー	桃林 秀年	昭和41年3月13日生	昭和63年3月 富士カントリー㈱入社 平成17年4月 当社可児ゴルフ場 ヘッドキーパー兼織部コース 担当グリーンキーパー 平成18年4月 当社取締役可児ゴルフ場ヘッド キーパー兼織部コース担当 グリーンキーパーに就任 平成18年11月 当社取締役可児ゴルフ場 ヘッドキーパーに就任 平成25年12月 当社取締役富士カントリー可児 クラブヘッドキーパーに就任 (現任)	(注) 2	普通株式 1
取締役	可児ゴルフ場 支配人	岩瀬 弘	昭和41年9月26日生	平成元年4月 富士カントリー㈱入社 平成15年5月 当社可児ゴルフ場副支配人 平成16年11月 当社美濃ゴルフ場支配人 平成20年4月 当社取締役美濃ゴルフ場支配人 に就任 平成25年5月 当社取締役可児ゴルフ場支配人 に就任(現任)	(注) 2	普通株式 1
監査役		山本 満彦	昭和34年7月24日生	平成3年10月 太田昭和監査法人(現 新日本 有限責任監査法人)入所 平成9年4月 公認会計士資格取得 平成10年1月 税理士資格取得 山本会計事務所所長(現任) 平成26年4月 当社監査役に就任(現任)	(注) 2 4	普通株式 1
監査役		中野 満	昭和7年9月29日生	昭和37年6月 日本ガイシ㈱入社 昭和54年8月 同社工業材料事業本部 製造部 部長 昭和57年6月 同社取締役金属事業部長に就任 昭和61年6月 同社常務取締役金属事業本部長 に就任 平成元年6月 同社専務取締役に就任 平成6年9月 同社顧問 平成17年4月 当社監査役に就任(現任)	(注) 3	普通株式 1
計						普通株式 8

- (注) 1. 監査役山本満彦及び中野満は、社外監査役であります。
2. 平成26年4月23日より平成28年4月開催の定時株主総会の終結までとなっております。
3. 平成24年4月20日より平成28年4月開催の定時株主総会の終結までとなっております。
4. 監査役山本満彦は前任監査役の退任により、その補欠として選任されておりますので、任期は当社定款の規定により平成28年4月開催の定時株主総会の終結までとなっております。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社は、株主を主な会員とするメンバーシップ制のゴルフ場を経営しており、会員の負担により業務運営の健全性を確保する一方、経営の結果生じた利益はゴルフ場が提供するサービスにより会員に還元されるべきとの基本方針を掲げております。当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、この基本方針実現を目的とし、経営の効率性・透明性を確保しつつ社会環境・経営環境の変化に迅速に対応しうる組織体制及び内部統制システムの確立に努めております。なお、会員組織としての任意団体である富士カントリー可児クラブ及びその代表者で構成している理事会との連携は、運営面で会員の声を経営に反映させる一方で、理事会に対して経営状況等を随時開示するなど、経営の透明化・適正化に寄与しております。

(コーポレート・ガバナンス体制の状況)

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

イ．会社の機関の内容

取締役会

当社の取締役は当事業年度末現在7名であり、取締役会は原則毎月1回の開催により、経営上の重要な意思決定を効率的に行っております。日常的または迅速を要するゴルフ場の運営面の意思決定は、前記の基本方針に基づき社長の監督の下、各ゴルフ場支配人が業務を執行する体制が整備されております。

ロ．内部統制システムの整備とリスク管理の状況

当社の内部統制システムといたしましては、平成18年5月23日開催の取締役会で、内部統制システム構築の基本方針を決議し、コンプライアンス担当取締役、及びリスク管理担当取締役を選任する等、業務の適正を確保するために必要な体制整備に努めております。

会計監査人及び法律事務所

当社は会計監査について、会計監査人から監査役及び取締役会が、会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査の報告を受けております。

また、法律事務所と顧問契約を締結し、企業経営及び日常業務に関して法律上のアドバイスを受ける体制を採っております。

ハ．監査役及び内部監査

当社は監査役制度を採用しており、社外監査役2名を選任しております。各監査役は、取締役会への出席や、業務及び財務の状況の調査等を通じ、取締役の職務遂行の監査を行っております。監査役の山本満彦氏は、公認会計士資格および税理士資格を保有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。当社は、会社法第427条第1項および定款第34条第2項の規定に基づき、社外監査役2名との間に会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。なお、当該契約に基づく責任の限度額は、法令が定める額であります。

また、内部監査につきましては、役員及び従業員の人数が少ないため担当部門はありませんが、業務の相互チェック機構を通じて不正を防ぐ努力をしております。会計監査人とは、監査計画、監査方針、監査実施状況に関して定期的に意見交換を行っております。

二．会計監査の状況

当社は新日本有限責任監査法人との間で、会社法監査と金融商品取引法監査について、監査契約を締結しております。当社の会計監査業務を執行した業務執行社員と当社の間には、特別の利害関係はありません。

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
指定有限責任社員 業務執行社員	安田 豊	新日本有限責任 監査法人
	大橋 正明	

継続監査年数については、両名とも7年以内であるため記載を省略しております。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 7名

役員報酬の内容

当事業年度における当社の取締役及び監査役に対する報酬等の額

取締役	7名	102,660千円
社外監査役	2名	3,000千円

- (注) 1. 取締役報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与等は、含まれておりません。
2. 取締役報酬等の額には、過年度負担分を含む役員退職慰労引当金繰入額55,800千円が含まれております。
3. 当社と社外監査役2名との人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。また、社外取締役はありません。

取締役の定数

当社の取締役は9名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらない旨定款に定めております。

株主の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものです。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
8,500	-	8,500	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案したうえで決定しております。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成25年2月1日から平成26年1月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するために、専門的情報を有する団体等が主催する研修・セミナー等に積極的に参加し適正性確保に取り組んでおります。

1 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年 1 月31日)	当事業年度 (平成26年 1 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,012,079	961,956
売掛金	40,652	50,665
有価証券	381,405	352,630
商品	3,837	5,327
原材料及び貯蔵品	45,986	45,653
前払費用	4,533	4,537
繰延税金資産	41,607	41,145
その他	6,190	3,300
貸倒引当金	6,126	8,011
流動資産合計	1,530,167	1,457,206
固定資産		
有形固定資産		
建物	3,726,203	3,752,780
減価償却累計額	3,153,924	3,191,979
建物（純額）	572,279	560,800
構築物	4,636,755	4,256,111
減価償却累計額	4,083,559	3,744,305
構築物（純額）	553,196	511,806
機械及び装置	201,396	217,191
減価償却累計額	185,441	197,527
機械及び装置（純額）	15,954	19,663
車両運搬具	275,696	270,022
減価償却累計額	248,378	259,263
車両運搬具（純額）	27,317	10,759
工具、器具及び備品	478,004	507,451
減価償却累計額	357,340	372,828
工具、器具及び備品（純額）	120,663	134,622
コース勘定	4,096,530	4,102,769
土地	5,773,290	5,773,290
リース資産	3,456	3,456
減価償却累計額	1,728	2,304
リース資産（純額）	1,728	1,152
建設仮勘定	64	2,052
有形固定資産合計	11,161,025	11,116,917

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年 1 月31日)	当事業年度 (平成26年 1 月31日)
無形固定資産		
ソフトウェア	3,997	7,621
電話加入権	3,632	3,632
無形固定資産合計	7,629	11,253
投資その他の資産		
投資有価証券	213,119	464,761
出資金	13,899	13,899
長期滞留債権	15,498	12,171
長期前払費用	253	231
繰延税金資産	9,059	10,121
その他	40,703	50,400
貸倒引当金	11,434	8,901
投資その他の資産合計	281,099	542,685
固定資産合計	11,449,755	11,670,855
資産合計	12,979,923	13,128,061
負債の部		
流動負債		
買掛金	12,701	14,958
リース債務	604	604
未払金	83,188	80,910
未払費用	128,265	127,342
未払法人税等	3,800	3,880
前受金	277	296
預り金	9,061	9,731
賞与引当金	10,500	10,660
その他	203	84
流動負債合計	248,602	248,467
固定負債		
リース債務	1,159	554
退職給付引当金	55,009	58,798
役員退職慰労引当金	-	55,800
入会預り保証金	45,000	42,000
固定負債合計	101,168	157,152
負債合計	349,771	405,620

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年 1 月31日)	当事業年度 (平成26年 1 月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金		
資本準備金	7,799,180	7,799,180
その他資本剰余金	3,511,558	3,511,558
資本剰余金合計	11,310,738	11,310,738
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,218,511	1,312,954
利益剰余金合計	1,218,511	1,312,954
株主資本合計	12,629,250	12,723,693
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	900	1,252
評価・換算差額等合計	900	1,252
純資産合計	12,630,151	12,722,441
負債純資産合計	12,979,923	13,128,061

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年2月1日 至 平成25年1月31日)	当事業年度 (自 平成25年2月1日 至 平成26年1月31日)
売上高		
プレー収入	1,292,159	1,297,595
レストラン売上	413,604	425,902
登録料収入	97,230	103,710
年会費収入	160,908	160,678
商品売上収入	35,672	40,187
その他の収入	455	320
売上高合計	2,000,029	2,028,394
売上原価		
商品売上原価		
商品期首たな卸高	4,093	3,837
当期商品仕入高	25,413	30,540
合計	29,506	34,378
商品期末たな卸高	3,837	5,327
商品売上原価	25,668	29,050
原材料費		
原材料期首たな卸高	6,327	6,634
当期原材料仕入高	150,930	154,826
合計	157,258	161,460
原材料期末たな卸高	6,634	6,724
原材料費合計	150,624	154,736
給料及び手当	498,354	506,413
賞与引当金繰入額	7,244	7,420
退職給付費用	8,895	7,652
福利厚生費	75,126	77,299
コース維持費	370,741	347,622
競技費	6,559	6,360
修繕費	44,385	39,632
消耗品費	44,066	42,050
燃料費	50,627	51,560
電力費	51,225	51,985
通信費	10,296	11,344
租税公課	88,607	95,130
保険料	7,730	7,649
減価償却費	188,967	144,009
賃借料	27,481	27,682
雑費	114,612	113,309
売上原価合計	1,771,217	1,720,911
売上総利益	228,811	307,483

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年 2 月 1 日 至 平成25年 1 月31日)	当事業年度 (自 平成25年 2 月 1 日 至 平成26年 1 月31日)
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	64,775	64,113
賞与引当金繰入額	295	259
退職給付費用	66	1,939
役員退職慰労引当金繰入額	-	55,800
福利厚生費	9,121	9,026
広告宣伝費	48,186	52,250
事務用消耗品費	4,761	5,472
交際費	4,396	6,206
会議費	1,869	2,181
租税公課	252	141
賃借料	1,093	2,570
減価償却費	4,543	3,063
諸手数料	29,338	29,726
寄付金	60	30
組合費	2,812	2,878
貸倒引当金繰入額	4,701	4,308
雑費	27	54
販売費及び一般管理費合計	176,300	240,022
営業利益	52,511	67,460
営業外収益		
受取利息	190	425
有価証券利息	5,173	5,264
受取配当金	150	125
受取保険金	2,202	2,147
トーナメント補助金	2,930	2,913
コース利用料収入	3,580	2,142
償却債権取立益	2,400	6,264
その他	9,498	8,186
営業外収益合計	26,125	27,469
経常利益	78,636	94,929
特別利益		
固定資産売却益	1 1,649	1 29
投資有価証券売却益	-	543
入会預り保証金償還益	2,714	1,857
特別利益合計	4,363	2,431
特別損失		
固定資産売却損	2 277	-
固定資産除却損	3 1,642	-
特別損失合計	1,920	-
税引前当期純利益	81,080	97,360
法人税、住民税及び事業税	3,800	3,880
法人税等調整額	15,728	961
法人税等合計	19,528	2,918
当期純利益	61,551	94,442

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年 2 月 1 日 至 平成25年 1 月31日）

（単位：千円）

	株主資本						評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			
					繰越利益剰余金			
当期首残高	100,000	7,799,180	3,511,558	11,310,738	1,156,959	12,567,698	3,363	12,564,334
当期変動額								
当期純利益					61,551	61,551		61,551
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							4,264	4,264
当期変動額合計	-	-	-	-	61,551	61,551	4,264	65,816
当期末残高	100,000	7,799,180	3,511,558	11,310,738	1,218,511	12,629,250	900	12,630,151

当事業年度（自 平成25年 2 月 1 日 至 平成26年 1 月31日）

（単位：千円）

	株主資本						評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			
					繰越利益剰余金			
当期首残高	100,000	7,799,180	3,511,558	11,310,738	1,218,511	12,629,250	900	12,630,151
当期変動額								
当期純利益					94,442	94,442		94,442
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							2,153	2,153
当期変動額合計	-	-	-	-	94,442	94,442	2,153	92,289
当期末残高	100,000	7,799,180	3,511,558	11,310,738	1,312,954	12,723,693	1,252	12,722,441

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年2月1日 至 平成25年1月31日)	当事業年度 (自 平成25年2月1日 至 平成26年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	81,080	97,360
減価償却費	191,542	143,904
無形固定資産償却費	1,946	3,146
長期前払費用償却額	22	22
貸倒引当金の増減額（ は減少）	1,402	647
賞与引当金の増減額（ は減少）	-	160
災害損失引当金の増減額（ は減少）	18,140	-
退職給付引当金の増減額（ は減少）	6,855	3,788
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	-	55,800
受取利息及び受取配当金	340	550
有価証券利息	5,173	5,264
入会預り保証金償還益	2,714	1,857
投資有価証券売却損益（ は益）	-	543
有形固定資産売却損益（ は益）	1,371	29
有形固定資産除却損	1,642	-
売上債権の増減額（ は増加）	8,244	6,686
たな卸資産の増減額（ は増加）	5,245	1,156
その他の資産の増減額（ は増加）	4,276	4,964
仕入債務の増減額（ は減少）	45	2,256
未払消費税等の増減額（ は減少）	5,345	966
その他の負債の増減額（ は減少）	4,622	1,833
小計	253,438	291,865
利息及び配当金の受取額	4,117	2,920
法人税等の支払額	2,999	2,771
営業活動によるキャッシュ・フロー	254,556	292,015
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	50,000	260,000
定期預金の払戻による収入	50,000	260,000
有価証券の償還による収入	230,000	200,000
有形固定資産の取得による支出	92,040	101,558
有形固定資産の売却による収入	2,249	2,046
無形固定資産の取得による支出	300	6,769
投資有価証券の取得による支出	49,000	323,889
投資有価証券の売却による収入	-	20,410
出資金の払込による支出	5	-
保険積立金の積立による支出	-	10,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	90,904	219,760
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	604	604
入会預り保証金の返済による支出	285	1,142
財務活動によるキャッシュ・フロー	890	1,747
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	344,570	70,507
現金及び現金同等物の期首残高	688,934	1,033,504
現金及び現金同等物の期末残高	1,033,504	1,104,011

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品・原材料・貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～65年

構築物 3～50年

少額減価償却資産

取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年均等償却によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(4) 長期前払費用

均等償却によっております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えるため、当期に帰属する支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額(簡便法)に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(追加情報)

当社は、平成25年6月19日開催の取締役会において、役員退職慰労金制度を導入し、役員退職慰労金規程を新設したことに伴い、当事業年度より役員退職慰労引当金を計上しております。

過年度負担分を含めた繰入額(55,800千円)は、販売費及び一般管理費で処理をしており、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は同額だけ減少しております。

5. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の処理方法

税抜方式によっております。

（会計方針の変更）

（減価償却方法の変更）

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成25年2月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、この変更による当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。

（表示方法の変更）

（損益計算書）

前事業年度まで営業外収益の「雑収入」に含めて表示しておりました「償却債権取立益」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より区分掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、営業外収益の「雑収入」に表示していた11,898千円は、「償却債権取立益」2,400千円、「その他」9,498千円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(損益計算書関係)

1. 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 2 月 1 日 至 平成25年 1 月31日)	当事業年度 (自 平成25年 2 月 1 日 至 平成26年 1 月31日)
車両運搬具	1,649千円	29千円

2. 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 2 月 1 日 至 平成25年 1 月31日)	当事業年度 (自 平成25年 2 月 1 日 至 平成26年 1 月31日)
車両運搬具	277千円	- 千円

3. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 2 月 1 日 至 平成25年 1 月31日)	当事業年度 (自 平成25年 2 月 1 日 至 平成26年 1 月31日)
構築物	1,584千円	- 千円
工具、器具及び備品	58	-
計	1,642	-

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成24年2月1日 至 平成25年1月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	9,430	-	-	9,430
劣後株式	7,110	-	-	7,110
合計	16,540	-	-	16,540

2. 自己株式の種類及び総数に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成25年2月1日 至 平成26年1月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	9,430	-	-	9,430
劣後株式	7,110	-	-	7,110
合計	16,540	-	-	16,540

2. 自己株式の種類及び総数に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成24年2月1日 至 平成25年1月31日)	当事業年度 (自 平成25年2月1日 至 平成26年1月31日)
現金及び預金勘定	1,012,079千円	961,956千円
有価証券勘定	381,405	352,630
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	160,000	160,000
償還期間が3ヶ月を超える債券等	199,980	50,575
現金及び現金同等物	1,033,504	1,104,011

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

厨房機器

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年1月31日)	当事業年度 (平成26年1月31日)
1年内	2,546	3,627
1年超	4,732	5,381
合計	7,279	9,008

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

資金をリスクの僅少な預金及び一定以上の格付けをもつ安全性の高い金融資産で運用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、主として会員の年会費及びクレジット会社への債権であります。これらの債権は一般的な回収リスクを有しておりますが、未収年会費に関してはクラブ規約等に従った回収努力を行うことにより、また未収クレジットに関しては大手クレジット会社との取引を行うことによりリスクの軽減を図っております。

営業債務である買掛金及び未払金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であり、これらは流動性リスクを有しておりますが、当社では月次資金繰計画表を作成し、管理体制を構築しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

未収クレジットの信用リスクは大手クレジット会社との取引を行うことにより、軽減を図っております。

市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

当社は、借入金がないため支払金利の変動リスクはありません。また、運用を行っている金融商品については、固定金利又は変動リスクの僅少なものを選択することによって市場リスクの軽減を図っております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

財務部門が、月次資金繰計画表を作成し、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

前事業年度（平成25年1月31日）

	貸借対照表計上額 （千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	1,012,079	1,012,079	-
(2) 有価証券及び投資有価証券	501,895	501,895	-
資産計	1,513,974	1,513,974	-

当事業年度（平成26年1月31日）

	貸借対照表計上額 （千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	961,956	961,956	-
(2) 有価証券及び投資有価証券	724,762	724,762	-
資産計	1,686,718	1,686,718	-

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、C R Fは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。債券は、証券会社から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

区分	前事業年度 （平成25年1月31日）	当事業年度 （平成26年1月31日）
非上場株式	92,629	92,629

非上場株式については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「(2) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

３．金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成25年１月31日）

	１年以内 （千円）	１年超 ５年以内 （千円）	５年超 10年以内 （千円）	10年超 （千円）
現金及び預金	1,012,079	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
（１）債券				
社債	-	20,000	-	-
その他	200,000	100,000	-	-
（２）その他	181,425	-	-	-
合計	1,393,504	120,000	-	-

当事業年度（平成26年１月31日）

	１年以内 （千円）	１年超 ５年以内 （千円）	５年超 10年以内 （千円）	10年超 （千円）
現金及び預金	961,956	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
（１）債券				
社債	-	210,000	-	-
その他	50,000	160,000	-	-
（２）その他	302,055	-	-	-
合計	1,314,011	370,000	-	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前事業年度(平成25年1月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	100,650	99,140	1,509
	(3) その他	-	-	-
	小計	100,650	99,140	1,509
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	19,840	19,866	26
	その他	199,980	200,000	20
	(3) その他	181,425	181,425	-
	小計	401,245	401,291	46
合計		501,895	500,431	1,463

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額92,629千円)については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度（平成26年 1 月31日）

	種類	貸借対照表計上額 （千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	10,023	10,000	23
	その他	101,850	99,356	2,493
	(3) その他	-	-	-
	小計	111,873	109,356	2,516
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	201,860	203,533	1,673
	その他	108,974	110,145	1,171
	(3) その他	302,055	302,055	-
	小計	612,889	615,733	2,844
合計		724,762	725,090	327

（注）非上場株式（貸借対照表計上額92,629千円）については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2．売却したその他の有価証券

前事業年度（自 平成24年 2 月 1 日 至 平成25年 1 月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成25年 2 月 1 日 至 平成26年 1 月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	20,410	543	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	20,410	543	-

（デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、総合職及び一般職の従業員の退職金並びにキャディ及び専任職の従業員の退職金に対し、退職一時金制度を設けております。なお、当社は、退職給付債務を算定するにあたり簡便法を採用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前事業年度 (平成25年1月31日)	当事業年度 (平成26年1月31日)
退職給付債務 (千円)	55,009	58,798
退職給付引当金 (千円)	55,009	58,798

3. 退職給付費用に関する事項

	前事業年度 (自 平成24年2月1日 至 平成25年1月31日)	当事業年度 (自 平成25年2月1日 至 平成26年1月31日)
勤務費用 (千円)	8,961	9,591
退職給付費用 (千円)	8,961	9,591

(ストック・オプション等関係)
該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年1月31日)	当事業年度 (平成26年1月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金	531,949千円	490,255千円
貸倒引当金	6,760	6,511
賞与引当金	4,042	4,104
未払固定資産税	37,001	36,694
退職給付引当金	19,913	21,284
役員退職慰労引当金	-	20,553
減損損失	5,061,340	5,042,394
その他	1,827	2,877
繰延税金資産小計	5,662,834	5,624,676
評価性引当額	5,606,891	5,567,779
繰延税金資産合計	55,943	56,897
繰延税金負債		
コース勘定	4,706	4,706
其他有価証券評価差額金	569	924
繰延税金負債合計	5,275	5,630
繰延税金資産の純額	50,667	51,267

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年1月31日)	当事業年度 (平成26年1月31日)
法定実効税率	41.0%	38.5%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2	0.3
住民税均等割	4.7	4.0
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	3.7	-
評価性引当金の減少	25.5	40.2
その他	0.0	0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	24.1	3.0

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課せられないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、平成27年2月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の38.5%から36.2%となります。

この税率変更による影響は軽微であります。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、ゴルフ場の経営及びこれに付随する事業を営む単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

１．製品及びサービスごとの情報

当社は、ゴルフ場の経営及びこれに付随する事業を営む単一セグメントであるため、記載を省略しております。

２．地域ごとの情報

(1) 売上高

当社の外部顧客への売上高は全て本邦に置けるもののみであるため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

当社の有形固定資産は、全て本邦に所在しているため、該当事項はありません。

３．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成24年 2 月 1 日 至 平成25年 1 月31日)	当事業年度 (自 平成25年 2 月 1 日 至 平成26年 1 月31日)
1 株当たり純資産額	1,311,114.69円	1,320,695.12円
1 株当たり当期純利益金額	6,389.59円	9,803.93円

(注) 1 . 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 . 1 株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 2 月 1 日 至 平成25年 1 月31日)	当事業年度 (自 平成25年 2 月 1 日 至 平成26年 1 月31日)
当期純利益 (千円)	61,551	94,442
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益 (千円)	61,551	94,442
期中平均株式数 (株)		
普通株式	9,430	9,430
劣後株式 (普通株式換算後)	203	203
計	9,633	9,633

なお、当社が剰余金の配当または残余財産の分配をするときは、劣後株式に先だって、普通株式に配当または分配をなし、普通株式1株の配当額または分配額は、劣後株式35株の配当額または分配額と同等であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他 有価証券	銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （千円）
		株式会社ケーブルテレビ可児	100	5,000
		株式会社房総カントリークラブ	1,783	58,321
		株式会社笠間ゴルフクラブ	1,730	29,307
		株式会社明智ゴルフ倶楽部	180,000	0
計			183,613	92,629

【債券】

有価証券	その他 有価証券	銘柄	券面総額 （千円）	貸借対照表計上額 （千円）
		シルフリミテッドシリーズ 1018	50,000	50,575
		小計	50,000	50,575
投資有価証券	その他 有価証券	スペイン開発金融公庫円貨債券	110,000	108,974
		第1回メリルリンチ・アンド・カンパニー・インク円貨社債	100,000	104,730
		第12回日本板硝子社債	100,000	97,130
		シルフリミテッドシリーズ 1267	50,000	51,275
		第5回SBIホールディングス無担保社債	10,000	10,023
		小計	370,000	372,132
		計	420,000	422,707

【その他】

有価証券	その他 有価証券	種類及び銘柄	投資口数等（千口）	貸借対照表計上額 （千円）
		（投資信託受益証券） 野村キャッシュ・リザーブ・ ファンド	302,055	302,055
計			302,055	302,055

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	3,726,203	26,576	-	3,752,780	3,191,979	38,055	560,800
構築物	4,636,755	14,217	394,862	4,256,111	3,744,305	55,607	511,806
機械及び装置	201,396	15,795	-	217,191	197,527	12,086	19,663
車両運搬具	275,696	720	6,393	270,022	259,263	15,261	10,759
工具、器具及び備品	478,004	36,275	6,828	507,451	372,828	22,316	134,622
コース勘定	4,096,530	6,239	-	4,102,769	-	-	4,102,769
土地	5,773,290	-	-	5,773,290	-	-	5,773,290
リース資産	3,456	-	-	3,456	2,304	576	1,152
建設仮勘定	64	25,086	23,098	2,052	-	-	2,052
有形固定資産計	19,191,398	124,910	431,183	18,885,126	7,768,209	143,904	11,116,917
無形固定資産							
ソフトウェア	15,261	6,769	1,699	20,330	12,709	3,146	7,621
電話加入権	3,632	-	-	3,632	-	-	3,632
無形固定資産計	18,893	6,769	1,699	23,962	12,709	3,146	11,253
長期前払費用	400	-	-	400	168	22	231
繰延資産	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 当期減少額のうち主なものは、以下のとおりであります。

構築物	可児ゴルフ場	カート道路	118,501千円
構築物	可児ゴルフ場	管理道路	87,576千円
構築物	美濃ゴルフ場	管理道路	43,378千円
構築物	美濃ゴルフ場	カート道路	30,828千円

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定のリース債務	604	604	-	-
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	1,159	554	-	平成27年
合計	1,764	1,159	-	-

(注) 1. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	554	-	-	-

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	17,560	16,912	4,956	12,604	16,912
賞与引当金	10,500	10,660	10,500	-	10,660
役員退職慰労引当金	-	55,800	-	-	55,800

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による戻入額であります。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

a. 現金及び預金

区分	金額（千円）
現金	9,492
預金	
普通預金	792,463
定期預金	160,000
小計	952,463
合計	961,956

b. 売掛金

イ. 相手先別内訳

相手先	金額（千円）
株式会社十六ディーシーカード	15,745
三菱ＵＦＪニコス株式会社	7,869
株式会社名古屋カード	7,579
三井住友カード株式会社	4,442
トヨタファイナンス株式会社	2,242
その他	12,786
合計	50,665

ロ. 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 （千円）	当期発生高 （千円）	当期回収高 （千円）	当期末残高 （千円）	回収率（％）	滞留期間（日）
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
40,652	1,439,527	1,429,514	50,665	96.5	11.5

（注） 当期発生高には消費税等が含まれております。

c . 商品

品目	金額（千円）
商品 プロショップ商品	5,327
合計	5,327

d . 原材料及び貯蔵品

品目	金額（千円）
原材料 レストラン食材	6,724
小計	6,724
貯蔵品 消耗品	38,929
小計	38,929
合計	45,653

負債の部

a . 買掛金

相手先	金額（千円）
株式会社ナカヤマ	2,737
マルシゲ青果	2,317
藤桂京伊株式会社	1,194
株式会社たんばや商店	1,048
株式会社たからじま	991
その他	6,668
合計	14,958

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	2月1日から1月31日まで
定時株主総会	4月中
基準日	1月31日
株券の種類	1株券・100株券・1,000株券及び100株未満の株数を表示した株券
剰余金の配当の基準日	1月31日
1単元の株式数	該当事項なし
株式の名義書換え 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料 新株交付手数料	日本証券代行(株) 本店 日本証券代行(株) 日本証券代行(株) 支店 取締役会で定める 無料
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	該当事項なし 該当事項なし 該当事項なし 該当事項なし
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL： http://www.kani-club.jp
株主に対する特典	当会社の発行する株式のうち、株券に「クラブ規約に基づき当会社の経営するゴルフ場の会員となる資格を有する」旨の記載のある株式1株以上を所有する株主は、クラブ規約に基づき当会社の経営するゴルフ場の会員となる資格を有する。

(注) 当社の株式の譲渡または取得については、株主または取得者は、取締役会の承認を受けなければなりません。

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

該当事項はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第40期）（自 平成24年 2 月 1 日 至 平成25年 1 月31日） 平成25年 4 月25日東海財務局長に提出。

(2) 半期報告書

（第41期中）（自 平成25年 2 月 1 日 至 平成25年 7 月31日） 平成25年10月25日東海財務局長に提出。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成26年 4 月24日

株式会社可児ゴルフ倶楽部

取 締 役 会 御 中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安田 豊 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大橋 正明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社可児ゴルフ倶楽部の平成25年2月1日から平成26年1月31日までの第41期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社可児ゴルフ倶楽部の平成26年1月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれておりません。